

平成27年度 第2回八尾市産業振興会議 議事概要

日 時	平成27年11月17日（火）午後2時00分～4時00分
場 所	八尾商工会議所会館 3階 中小企業サポートセンター セミナールーム
出席者	<p><委員> 今井委員（工）、樫本委員、勝浦委員（商）、加藤志津子委員（商）、加藤光子委員（商）、高橋委員（商）、田中委員（工）、寺西委員（商）、進藤委員、野田委員、藤岡委員（商）、藤原委員（工）、文能委員（工）、村本委員（工）、森嶋委員（工）、山本委員 ※五十音順 ※（工）工業振興部会委員、（商）商業振興部会委員 計 16名</p> <p><事務局> 村上部長、馬場次長、福井課長、吉武参事、大井参事、主井課長補佐、徳光室長、阪口係長、後藤係長、中西副主査、浦崎 計11名</p> <p><オブザーバー> 近畿経済産業局 総務企画部企画課産業構造係長 杉本氏 八尾商工会議所 中小企業相談所 所長代理 川野氏 計2名</p> <p style="text-align: right;">総計29名</p>

－事務局による司会で次第に沿って進行－

1. 開 会

事務局より、八尾市産業振興会議委員19名のうち欠席者3名出席予定者2名となっており八尾市産業振興会議規則第3条に規定する過半数の委員の出席により、本日の会議が成立している旨を報告
配布資料を事務局より確認

2. 経済環境部長あいさつ

3. 議 事

－座長による議事進行－

（1）八尾市産業振興会議商業振興部会・工業振興部会報告書について

「商業振興部会の検討内容」について事務局より説明

座 長：商業振興部会で検討した内容について事務局より報告いただいた。報告内容についてご意見をいただきたい。

副 座 長：商業振興部会では、今後商店数が減少する傾向にあることから商業集積をどのように維持するかについて考えてきた。ソーシャルネットワークの有効性等について委員からご指摘いただいたことが、今回の報告書にまとめられている。

座 長：商業振興部会では社会実験を行うなど、それぞれの委員が主体的に情報発信等の取り組みを行った。委員から意見があればお願いしたい。

委 員：事業者にとっては後継者問題が課題になっている。後継者がいる店はなんとか継続できているが、同業者の約半数に後継者がいない。また、設備投資を考えると機械は高額であり、後継者が決まっていなければ長期負債を抱える覚悟ができない。さらに、大阪府下では大型店舗の出店が相次いでおり、人の流れが変わってきている。

座 長：商業環境が厳しい中、八尾市には後継者育成がスムーズになるような方策を期待している。

委 員：「働く女性の支援」について、商業だけに特化したことであるのか。

副 座 長：基本的には商業に限らず工業も含めた全体的なものと認識している。小売業中心に八尾市がどう活性化するか議論をした時に、「女性に対する支援が必要」との意見が出たものである。

委員：商業においては、女性が充分活躍されているという認識であった。

副座長：確かに商業振興部会には女性の委員も多く、活躍されている方も多いが、それでもまだ女性が働くには課題が多い。

委員：アリオ八尾や西武百貨店では女性従業員の比率が高いが、女性の人材確保が難しい。そのため施設内や建物近くに保育園を設置し、女性が安心してお子さんを預けて働けるような環境づくりに取り組んでいる。八尾市の保育施設に関するインフラ整備についてお聞きしたい。

事務局：保育所の定員を増やして待機児童数減少に取り組んでいる。サテライト施設も増やしているが園舎と園庭という形で作るのは難しく、ビルのテナント形式をとることもある。まずは量を確保するという観点で取り組み、相当数の定員増を目指している。また、八尾市では「認定こども園」という施設の整備に動いている。国が音頭を取り市は施策を進めているが、先ほどの話のように待機児童解消の実現は難しい。市としてはこの問題解決のためにしっかり取り組んでいきたい。

委員：子どもを預けるという問題と別に、働く場所があるのかも大事。駅前にあるワークサポートセンターなどを活用していただきたい。大型商業施設としては引き続き託児所機能を取り入れていきたい。

座長：働きたい女性が働けるよう、仕事や場所を提供するなど、現状よりもより良くなるように、八尾市のほうで関係部署を巻き込んで検討を進めていただきたい。委員の皆様には「こんなサポートがあれば働きやすくなる」などのご意見があれば伺いたい。

委員：保育所はフルタイム勤務の方が優先される。しかし、社会と接点を持ちたくて子どもが保育所に行っている間だけ働きたい方もいる。パートタイム勤務だと預けるところを見つけるのが難しい。そのため大きな事業者の場合、企業内保育所を作っていただきフルタイム・パートタイムに関わらず子どもを預けられたらありがたい。小さい事業所には難しいので行政の支援が必要になる。

座長：パートタイム勤務の方が子どもを預ける機会に恵まれないという現状を是非改善いただけたらと思う。

「工業振興部会の検討内容」について事務局より説明

座長：工業振興部会では八尾の産業集積の維持について議論を行った。「ものづくりのまち・八尾」として、いかに産業集積と雇用を維持していくかを議論の課題とした。検討内容の最後に記載していた「操業環境」は、これからのものづくりにおいて大事な課題。ものづくりを継続していくには、地域住民と事業者の相互理解がなくてはならない大きなテーマ。事業者側が率先して様々な取り組みをしているが地域住民には見えずご理解いただけていない。働く人と住む人が相互理解を進めて、よりよいまちをつくるために一緒に考えていかねばならない。委員の皆様からご意見や補足があればいただきたい。

委員：この2年間、議論を重ねて分析を進める中で、商工ともに事業所数が減少していることがわかった。そのため従事者も減っており、八尾市全体の人口も減少傾向にある。その中で商業工業だけでなく、八尾市全体のまちづくりを考えていかねばならない。産業振興会議の委員の皆さんからの有志で、まずは商店街の活性化の取り組みを始めている。あくまでもきっかけづくりであり、その先の取り組みとして、商業と工業が連携して新しい産業の創出を目指すためにこのような取り組みを進めたい。先日、商業振興部会委員のある方とその方のお仲間数人の方が当社の工場見学に来てくれた。その時、当社工場の廃棄物であるワイヤーを見て見学者のお1人が「欲しい」と言ってこられた。「これで財布を編みたい」と言っておられ、廃棄物から新し

いビジネスが生まれるかもしれない。こういった新しいビジネスの発想は商工の相互交流で生まれる可能性がある。このようなことを増やして行って、八尾から新しいビジネスを作り出していくことが大事ではないか。

「今後の地域経済の活性化に向けて」（商業・工業合同部会）について事務局より説明

座長：先ほどの委員の方のご意見と事務局からの説明にあったように、商業と工業がお互いに補い合う事によって、これからの八尾をつくっていくことが大切である。

副座長：今回改めてわかったことは、商業と工業の関係だけでなく、経済活動全体あるいは社会活動とつながっているということである。工業振興部会で議論されてきたような都市計画とのつながりもあるだろうし、子育て支援のような厚生労働関係の活動やつながりもある。つながっていることを認識する重要性があるからこそ、それぞれが自分の仕事にしっかりと取り組み、「個」を強くしなければいけない。更にそれを次のつながりへと発信していくことの重要性があるということを商業・工業合同部会で確認した。

座長：産学連携を含めつながりはあるが、実際の成果に結びつけるのは難しい。いかに結びついて成果をあげていくか、次のステージとしてこれからの八尾はそれを目指していかなければいけないのではないだろうか。つながっていくことは非常に大事であり、そのためにはまず自分が強くないと、他者はつながろうと思わない。自分の魅力を高めて多くの人とつながっていききたい。つながりたいと思ってもらえるようになれば新しいつながりが生まれるはず。社会実験の中で言われていたように、自らが主体的に情報発信をしていくことで、今までとは違った方とのつながり方ができるかもしれない。主体的に動くことが大事。この他、ご意見を伺いたい。

委員：金融機関の業界の主催で、ハローワークと連携して企業ブースを200席用意し、就業支援のための面談会を行う。また、八尾市のイメージが良くない。「八尾に住みたいですか?」「八尾で就職したいですか?」の回答データが平均より少し下である。この結果は雇用面に影響しているのではないかと思われる。行政・市民・金融機関の努力が必要なのだと思う。コンソーシアムを組んでこのイメージを払しょくしていかなければならない。住工共生の視点で調べてみると、八尾で企業勤めの方は近隣にお住まいの方が多い。もし職場が地方に移転してしまったら、職を失うか転勤になってしまう。日本政策金融公庫と当金庫、八尾市が連携して、「夢を叶える起業応援セミナー」を開催する予定である。八尾で起業する方を増やしていきたい。

座長：貴重なご意見をいただいた。「八尾のイメージが良くない」ということがデータに出ているということに驚きだ。市民や行政の頑張りが外部の人に届いていないのかもしれない。八尾市の産業政策課にある「魅力創造室」を中心に八尾の魅力をPRしていただきたい。

事務局：行政としては、八尾の良いところを発信していきたい。行政だけでは十分に発信できないので、事業者の方などにも協力いただきたい。

委員：先ほどのご意見の中にあつた「八尾市のイメージ」についてのお話と工業振興部会で指摘されていた「ブランド化」は少なからずリンクしていると思われる。シティプロモーションの観点で考えると八尾は正直弱いように感じ、もったいない。ものづくりだけでなく他の産業に携わる人たちも巻き込んだ新たな集積体系を持って、シティプロモーションを兼ねたブランド化をしていきたい。そのような広域の連携という将来展望を持って、八尾のものづくりや商業、八尾市全体の発展を見据えて議論できる段階にいよいよ入ってきたと思う。地域資源をうまく発掘してプロモーションや連携の場につなげて経済発展させていくような視点を今後、この会議の場で議論していきたい。今の時勢から考えても必要なことだと思う。2年間の議論を通してそのような感想を持っている。

座長：大事なポイントをご指摘いただいた。いいものはあるのに気づいていないものがたくさんある。資源の棚卸を行う必要があるのかもしれない。

委員：当社の「エリアモード」というプロジェクトは、各地方の特産品を活用した商品を開発してブランド化するというもの。八尾店ではまだこのプロジェクトのスタートが切れていないが、例えば徳島の店では、藍染で作ったコートやブラウス等の商品を開発している。福井の店では桐箆箆をモチーフにしたキャリーケースや桐箆箆の金具を使用した髪飾り等がある。「エリアモード」は服だけを扱うのではなく、食品もあり、各店で取り組みが進められている。このような特産品は八尾にはたくさんあるはずなので、資料を取寄せて只今勉強をしている。各店で悩みになっているのは、このプロジェクトを各店で立ち上げることにより、売り上げがどれくらい立ってマーケットが広がるのかどうか。商品の製造業者と販売する当社がWin-Winの関係でないといけない。当社は、時間はかかると思うがグループとして取り組んで、人を教育して、製造業者とともに利益を生み出していきたい。地方にはそれぞれ良い物がある。それらをブランド化するためには、一度それらを集めて知ってもらう機会をつくらなくてはならない。そうしないと商業の発展にはつながらない。また、働く女性の職場環境について、働きたい女性のニーズがかみ合っていないことを実感している。働く場所づくりに取り組まなくてはならない。

座長：貴重なお話をお聞かせいただいた。地域資源を活かした取り組みをしていただき、販路を持っている店と、八尾市のものづくりや商業がうまく連携していけたら、全国展開の可能性もある。次の機会の検討材料の一つになるかもしれない。

委員：雇用について様々な問題があるが、八尾市で未就労者数の現状を把握して、中小企業の良さを活かした取り組みができないか。そうしてこういった企業が八尾にあることを世間に知らせていきたい。市内の企業が八尾市の雇用を支えている。社員教育だけでなく会社の地力も強めていって、八尾市にはこの会社が必要なのだと言われるような会社を作っていきたい。八尾市の条例の冒頭に「八尾に住みたい」「八尾で働きたい」そんなまちを目指すという記載がある。会議の議論に参加している皆さんには、魅力ある会社づくりの重要性を感じていただきたい。そして行政には世間に知らせる仕組みづくりに取り組んでいただきたい。

委員：立場の違う人との連携・交流は、商業工業分け隔てなく行うというのはもっともだと思う。大阪府では、ものづくりビジネスセンター大阪（MOBIO）で「MOBIOカフェ」を実施し、企業がつながるための取り組みを行っている。また、別の取組みとして、異業種（製造業・デザイン業・流通業・サービス業・各支援機関など様々）の方々が集まって交流し、ワークショップを通じて新たな事業が展開できないか検討をしている。府の事業は、どちらかというモデル事業を提案して、先駆的な取り組みの波及的効果を地域の方々に広めていくという形をとっている。先ほど挙げた商店街の活性化の取り組みは非常に大きなモデル事業であると思う。こういったモデル事業が八尾市の中から発信されていくと、良い方向に向かっていくのではないだろうか。府は商店街活性化のモデル事業の創出にも取り組んでおり、八尾市の方々にも数多く手を挙げていただき、一つでも多くの先駆的な取り組みを八尾市から発信していただきたい。それが八尾市の活性化につながると思う。

座長：本日は委員の皆さんから様々なご意見を頂戴した。これらを踏まえて、産業振興会議からの提言をまとめることになる。その作業は座長である私に一任いただき、事務局と調整して進めていくということで宜しいか。（委員一同了承）まとめたものを八尾市長に提出する。なお、本日の意見の中からいただいた情報や提言書の案に対してご意見がある方は、後日事務局にご連絡いただけたらと思う。

(2) その他の報告事項について

提言書完成までのスケジュール、参考資料（八尾あきんど起業塾～応用編～、yaomania、景気動向調査結果）について事務局より説明

座長：完成した報告書は12月に八尾市に提出していくスケジュールで進める。本日は「つながる」をキーワードに皆様からご意見をいただいた。地域経済活性化に向けて大阪府の施策で活用できることがあればご紹介いただきたい。

委員：府の商業・サービス産業課では「新事業創業プラットフォーム事業」を行っており、今年度は「メディカル&ヘルスケア」と「集客・観光サービス」をテーマにして、異業種・ユーザー・支援機関が集まるワークショップを実施し、新たな事業の創出を目指している。また、付加価値の創造の観点として、「デザイン」が重要視されると考えている。大阪府産業デザインセンターでは付加価値の創造の視点からの相談を受け付け、デザインイノベーションを推進する取り組みを行っている。

座長：オブザーバーとしてお越しいただいている、近畿経済産業局 総務企画部 企画課 産業構造係長 杉本泰寛氏から、国の施策で活用できそうなものがあればご紹介いただきたい。

オブザーバー：地方再興に向けて頑張る自治体を応援するための「地方創生」に絡んで、自治体のネットワークづくりを進めている。先ほども商業振興部会での報告でネットワークづくりについてのお話を伺ったが、まさに弊局で行っているのは、地方創生にあたって創業支援やソーシャルビジネス、農商連携、地域製品を活用した特産品づくりなどの色々な課題ごとに、自治体が集まって解決を目指すというもの。そしてその場には金融機関や支援機関等も参加する。この取り組みを10月から始めている。八尾市の取り組みは他の自治体よりも進んでいるものも多いと聞いている。八尾市も他の自治体と密接に関わることで、得られるものもあると思う。他の自治体とつながることで、八尾市が今まで培ってきたエッセンスを新たな産業づくりにおける新しい観点につなげていただきたい。ご協力とご参加をお願いしたい。

座長：重要なご提案と情報提供をいただいた。事務局とともに今後の検討材料としたい。続いて八尾商工会議所の川野所長代理からご意見をいただきたい。

オブザーバー：大阪府内のものづくり企業を対象にした展示会を開催する。こういった展示会を中心にして「つながる」場をつくっている。約190社に出展いただく。うち約半数が八尾市内企業。来場者は2日間で約8,000人が見込まれる大規模な展示会。八尾市内の地域資源活用についてだが、私どもで選定したスイーツを会場で販売する。ものづくり企業はもちろん、商業者の方にも一度見ていただき、商工がつながる場になればよいと思う。

座長：八尾の企業がたくさん出展されるということで、是非応援に行けたらと思う。

4. 産業政策課長あいさつ

5. 閉会